

## カトリック山手教会月報

## やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地  
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第646号 2023年12月10日

## 鈴木真主任司祭主日ミサ説教

2023年9月10日 年間第23主日 A年

マタイ福音書 18章15-20節

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」…大好きな箇所です。よく青年たちとささげるミサの福音などにも使うところですが、残念なことに、〈地上でのイエスの不在〉を前提としていることから、イエスご自身の言葉ではない…のだそうです。それを知った時はショックでしたが、でも恐らくは、これは共同体としての体験だったのでしょう。イエスの名によって集まるわたしたちの中に、イエスご自身も必ずいてくださる。いつも言うように、これは紛れもなく「復活体験」に他なりません。

「名によって」という表現は、何気によく使われる言葉ですが、実はとても重要なものです。直訳だと“名の中で”、そして聖書において「名前」とはそれを持つ者の本質を指す、と言われます。つまり「名」という言葉が出てきた時は、「本質」と言い換えた方がより分かりやすい、とも思います。

わたしたちが日常的に使う十字架のしるし、「父と子と聖霊のみ名によって」という言葉も、丁寧に言うならば、「父である神さま、あなたを『父』と呼ぶことを教えてくださった子であるイエスの教えに従って、そして聖霊のはたらきに促されて、神さまとわたしたちとの関係性の本質の中で、わたしたちはこれからあなたに祈りをささげます。」とな

り、まわりの人たちはそれに「アーメン（はい、わたしもそう思います。そうでありますように）」と答えるわけです。何となく習慣で唱えています、実はすごく大切な言葉なのですね。

「あなたがたのうち二人が地上で心をつにして求めるなら…」一人じゃダメか?とか思ってしまいますけど、これは共同体の重要性を言っているのでしょう。「わたしと神さま」だけの関係性はあり得ません。いつも「わたしたち」という横の関係性の中で、神さまは人を通してはたらかれているのですから。

いつも言うことですが、「教会」は〈集まり〉です。わたしたちが集まるところに、集められたところにこそ、神さまのはたらきがある。そのような中で、共にいてくださるキリストの存在を、共に感じたい、と思います。

## 七五三の祝福

11月12日（日）11時30分のミサの中で、主任司祭・鈴木真師による「七五三の祝福」が執り行われました。

参加者は5人で、聖堂内の多くの信徒たちから温かい拍手が送られました。子どもたちは司祭からメダイを首にかけていただき、飴が入った袋を手渡されて、うれしそうでした。中には、儀式中に母親に甘えて抱きつく子どももいて、微笑ましいものでした。神さまから子どもたちの上に、たくさんのお恵みが注がれますように！